

竹瀆修 教授 略歴・主な業績

略 歴

略 歴

- 1958年11月 京都市に生まれる
- 1977年 3月 立命館高等学校卒業
- 1981年 3月 立命館大学法学部卒業
- 1983年 3月 立命館大学大学院法学研究科博士前期課程修了
- 1983年 3月 修士（法学・立命館大学）
- 1986年 3月 立命館大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
- 1996年 9月 ロンドン大学高等法学研究所にて在外研究（～1997年 9月）

職 歴

- 1986年 4月 近畿大学法学部専任講師（～1989年 3月）
- 1989年 4月 立命館大学法学部助教授
- 1993年 4月 立命館大学法学部教授（～現在に至る）
- 2004年 4月 立命館大学大学院法務研究科教授（併任）（～2007年 3月）

*上記のほか、近畿大学法学部、大阪大学法学部などで非常勤講師として勤務する。

（学内役職歴）

- 1993年 4月 立命館大学法学部学生主事（～1994年 3月）
- 2001年 4月 立命館大学大学院法学研究科主事（～2003年 3月）
- 2001年 4月 立命館大学大学院委員（～2003年 3月）
- 2003年 4月 立命館大学大学院法学研究科長（～2004年 3月）
- 2003年 4月 立命館大学協議員（～2005年 3月）
- 2006年 4月 立命館大学法学部副学部長（～2007年 3月）
- 2007年 4月 立命館大学大学院法学研究科長（～2009年 3月）
- 2007年 4月 立命館大学協議員（～2009年 3月）
- 2010年 4月 立命館大学協議員（～2012年 3月）

2012年 4月 立命館大学法学部長（～2015年 3月）
2013年 4月 公助連代表（～2014年 3月）

所属学会

日本私法学会
日本保険学会
日本海法学会
日本空法学会
金融法学会
信託法学会
日本交通法学会
日本消費者法学会

学術・社会活動等

日本海法学会理事（1998年10月～2022年10月）
日本私法学会運営懇談会委員（2003年10月～2005年10月）
商事法務研究会賞審査委員（2005年度～2013年度）
法務省法制審議会保険法部会幹事（2006年度～2008年度）
法務省旧司法試験考査委員（商法）（2006年度～2007年度）
日本空法学会理事（2006年 5月～2022年 5月）
信託法学会理事（2006年 6月～2012年 6月）
法務省新司法試験考査委員（商法）（2008年度～2013年度）
住友生命保険相互会社保険金等支払審議会委員長（2008年 4月～現在に至る）
日本保険学会理事（2008年10月～2020年10月）
日本私法学会理事（2010年10月～2014年10月）
公益財団法人生命保険文化センター学術振興委員会委員（2014年 4月～現在に至る）
公益財団法人損害保険事業総合研究所評議員（2015年10月～現在に至る）
日本生命保険相互会社総代候補者選考委員会委員（2017年 7月～現在に至る）
公益財団法人生命保険文化センター理事（2020年 6月～現在に至る）

受賞

1985年度 各務賞奨励賞

主な業績

単 著

『保険法入門』〔日経文庫1198〕

(日本経済新聞出版社) (2009年4月)

編 著

『基礎クラス+ α 会社法』

(法律文化社) (2010年11月)

監 修

『EU 保険関係指令の現状 (解説編)』

竹瀆修監修

(財損害保険事業総合研究所) (2006年3月)

『速報 Q&A 新保険法の要点解説』

竹瀆修監修/高山崇彦編著

(社金融財政事情研究会) (2008年7月)

『保険法の新潮流——SDGs 時代における保険法の役割と諸法との交錯』

竹瀆修監修/泉裕章 = 矢野慎治郎 = 前田順平編著

(法律文化社) (2021年10月)

共著・共編著

『消費者法の比較法的研究』

〔立命館大学人文科学研究所研究叢書9〕

長尾治助、山根裕子、堀田牧太郎、鹿野菜穂子、出口雅久と共編

(有斐閣) (1997年8月)

『保険法』〔有斐閣アルマ〕

山下友信、洲崎博史、山本哲生と共著

(有斐閣)〔初版〕(1999年5月)

〔第2版〕(2004年10月)

〔第3版〕(2010年3月)

〔第3版補訂版〕(2015年3月)

〔第4版〕(2019年4月)

『保険法改正の論点』〔中西正明先生喜寿記念論文集〕

木下孝治、新井修司と共編
(法律文化社) (2009年3月)

監訳・共訳

LES ASSURANCES 2^e édition

『フランスの生命保険契約における基礎的概念』

* フランス保険研究会として共訳

Nicolas Jacob著/羽原敬二監訳

(財生命保険文化研究所) (1992年12月)

『フランス保険法典Ⅰ 保険契約法 (法律・政令・省令) 1997年段階』

* フランス保険研究会として共訳

武知政芳 = 今井薫監訳

(財生命保険文化研究所) (1998年4月)

『フランス保険法典Ⅱ 義務的保険・企業 (その1) (法律・政令・省令)
1998年段階』

武知政芳 = 竹濱修監訳

(財生命保険文化研究所) (1999年4月)

報告書

『ヨーロッパ金融法制調査報告書』

ヨーロッパ金融法制調査団編

(財生命保険文化研究所) (1989年3月)

『日本型製造物責任制度のあり方に関する研究

——製造物責任における欠陥の推定、賠償の履行確保——』

日本型製造物責任制度のあり方に関する研究会編

NIRA 研究報告書 No.920011 (総合研究開発機構) (1992年12月)

論文

「保険事故招致免責規定の法的性質と第三者の保険事故招致 (一)、(二)・完」

立命館法学170号 43頁 (1984年1月)

立命館法学171号 49頁 (1984年2月)

- 「事故発生のお知らせ義務等の違反効果について
——西ドイツ自動車保険普通保険約款を中心に——」
文研論集71号 107頁 (1985年6月)
- 「変額生命保険契約」
法律時報59巻3号 42頁 (1987年3月)
- 「被保険者の道徳危険と危険の増加」
近大法学35巻1・2号 85頁 (1987年10月)
- 「アメリカ保険法におけるワランティ法理——その変遷素描——」
近大法学36巻1号 35頁 (1988年9月)
- 「イギリスの保険募集規制と消費者保護」
民商法雑誌101巻1号 28頁 (1989年10月)
- 「商業登記における登記義務者」
志村治美編著『総合判例研究・商業登記』
〔塩田親文先生還暦記念論文集〕
(晃洋書房) 165頁 (1991年1月)
- 「保険事故発生のお知らせ・説明義務の再検討(一)、(二)、(三)」
立命館法学217号 1頁 (1991年10月)
立命館法学219号 25頁 (1992年1月)
立命館法学220号 51頁 (1992年3月)
- 「告知義務」
金融・商事判例(別冊)3号
『自動車保険の法律問題』77頁 (1991年11月)
- 「人保における自殺免責条項」
立命館法学225・226号 312頁 (1993年3月)
- 「保険契約法における道徳危険と民法理論」
旬刊商事法務1330号 10頁 (1993年8月)
- 「生命保険契約の失効と復活」
入江正信執筆代表『保険法の現代的課題』
〔三宅一夫先生追悼論文集〕
(法律文化社) 274頁 (1993年10月)
- 「生命保険募集人の一社専属制と乗合許容制の調整について」
募取法研究会報告書6号
(財生命保険文化研究所) 1頁 (1993年12月)

「他保険契約の告知・通知義務」

田中誠二監修
金融・商事判例（増刊号）933号
『損害保険の法律問題』42頁（1994年1月）

「保険者の教示義務」試論」

龍田節＝森本滋編『商法・経済法の諸問題』
〔川又良也先生還暦記念〕
（社商事法務研究会）373頁（1994年2月）

「ドイツ自動車保険における事故発生後の義務と詐欺的請求」

立命館法学231・232号 457頁（1994年3月）

「取締役・会社間の取引」

齊藤武＝森淳二郎＝上村達男編著
『現代有限会社法の判例と理論』
（晃洋書房）238頁（1994年11月）

「保険事故招致免責の主観的要件——学説・判例法の最近の展開——」

保険学雑誌547号 28頁（1994年12月）

「震災と地震保険契約」

民商法雑誌112巻4・5号 200頁（1995年8月）

「契約者貸付」

倉澤康一郎責任編集
金融・商事判例（増刊号）986号
『生命保険の法律問題』141頁（1996年3月）

「火災保険の地震免責条項の適用はどう考えるべきか」

法学セミナー497号 52頁（1996年5月）

「火災保険における被保険者の保険事故招致」

民商法雑誌114巻4・5号 98頁（1996年8月）

「保険の目的物の譲渡」

金澤理＝塩崎勤編『裁判実務大系26 損害保険訴訟法』
（青林書院）174頁（1996年11月）

「相続と保険金受取人——学説史素描」

倉沢康一郎＝奥島孝康編
『昭和商法学史』〔岩崎稜先生追悼論文集〕
（日本評論社）595頁（1996年12月）

- 「イギリス保険者免責条項の制限的解釈——合理的注意条項について——」
立命館法学249号 269頁(1997年3月)
- 「健康保険と道徳危険」
山下友信監修『米国における私的健康保険法の研究』
〔安田火災記念財団叢書50号〕
(財安田火災記念財団) 104頁(1997年4月)
- 「英国保険オンブズマン制度とその現状」
長尾治助 = 山根裕子 = 堀田牧太郎 = 竹濱修 = 鹿野菜穂子 = 出口雅久編
『消費者法の比較法的研究』(有斐閣) 222頁(1997年8月)
- 「農業協同組合法等による総会決議の取消請求と取消の訴え」
立命館法学256号 249頁(1998年3月)
- 「投資者保護基金と保険契約者保護機構」
ジュリスト1145号 27頁(1998年11月)
- 「保険会社の破綻時におけるセーフティ・ネット」
金融法研究 資料編(15) 165頁(1999年9月)
- 「代金決済と法」
齊藤武編『現代の企業と法を考える』
(法律文化社) 188頁(2000年5月)
- 「英国保険契約法と消費者保護——保険約款の解釈方法との関係——」
立命館法学271・272号 500頁(2001年2月)
- 「被保険者および第三者の保険事故招致——最近の火災保険判例の動向——」
損害保険研究63巻1号 19頁(2001年5月)
- “Personal insurance contracts”
INSURANCE LAW
Edited by Veronica Taylor,
Japan Business Law Handbook,
(CCH) ¶49-770=49-865(2001年6月)
- 「保険金受取人の死亡と相続」
倉澤康一郎編
金融・商事判例(増刊号) 1135号
『新版 生命保険の法律問題』 81頁(2002年2月)

「新株予約権 商法の立場から」

三木義一＝山下眞弘編著
『税法と会社法の連携』（税務経理協会）
〔初版〕143頁（2003年8月）
〔増補改訂版〕151頁（2004年5月）

「会社役員の保険事故招致——損害保険契約の場合——」

損害保険研究65巻3・4号339頁（2004年2月）

「銀行・証券会社の顧客選択の自由と契約関係の解消

——不法勢力関係者との契約の拒否および解消——」

立命館法学298号189頁（2005年3月）

「保険契約と説明義務・告知義務」

中田裕康＝山本和彦＝塩谷國昭編
判例タイムズ1178号臨時増刊
『説明義務・情報提供義務をめぐる判例と理論』92頁（2005年7月）

「生命保険金の支払義務」

塩崎勤＝山下丈編
『新・裁判実務大系19 保険関係訴訟法』
（青林書院）366頁（2005年9月）

「保険金支払債務の履行遅滞」

立命館法学304号88頁（2006年3月）

「ファイナイト保険の法的性質」

立命館法学310号210頁（2007年3月）

「契約前発病不担保条項の解釈とその規制」

立命館法学316号99頁（2008年3月）

「保険法制定の背景と今後の展望」

法律のひろば61巻8号13頁（2008年8月）

「生命保険契約および傷害疾病保険契約特有の事項」

ジュリスト1364号42頁（2008年10月）

「新保険法と消費者保護

——告知義務と保険給付の履行期を中心に——」

現代消費者法1号101頁（2008年10月）

「損害保険における保険事故招致免責」

竹濱修 = 木下孝治 = 新井修司編

『保険法改正の論点』〔中西正明先生喜寿記念論文集〕

(法律文化社) 178頁 (2009年3月)

「損害保険契約における経済的被保険者」

川濱昇 = 前田雅弘 = 洲崎博史 = 北村雅史編

『企業法の課題と展望』〔森本滋先生還暦記念〕

(商事法務) 449頁 (2009年4月)

「生命保険契約の失効条項の効力」

立命館法学327・328号 414頁 (2010年3月)

「創設『保険法』のポイント——消費者の権利の観点から——」

月刊国民生活24号 13頁 (2010年4月)

「新保険法の特徴点」

日本保険医学会誌108巻4号 307頁 (2010年12月)

「保険法に規定のない義務の違反の効果

——保険事故発生後の説明義務違反の効果を中心に——」

損害保険研究73巻2号 29頁 (2011年8月)

「第三者のためにする生命保険契約における質権設定権者」

立命館法学339・340号 124頁 (2012年3月)

「生命保険契約における自殺免責(1)、(2・完)

——ドイツ保険契約法の現状と分析——」

立命館法学373号 300頁 (2017年12月)

立命館法学374号 239頁 (2018年2月)

「意思能力の減退と被保険者の重過失」

立命館法学387・388号 131頁 (2020年3月)

「将来の保険金請求権に対する質権設定

——いわゆる将来債権譲渡等の規定新設を受けて——」

立命館法学389号 345頁 (2020年6月)

「民法改正の保険契約への影響——無催告失効条項、継続保険契約の質権設定、

配偶者居住権の被保険利益について——」

旬刊商事法務2243号 9頁 (2020年10月)

「自動運転と被保険者の主観的危険除外」

立命館法学393・394号 481頁 (2021年3月)

「保険取引をめぐる法規制・被害者救済の変遷と課題
——最近の問題事例を中心に——」

現代消費者法58号 43頁 (2023年 3月)

「傷害保険事故の急激性に関する一考察」

立命館法学405・406号 376頁 (2023年 3月)

「中小企業の賠償責任保険等の利用における法的課題」

損害保険研究85巻 4号 1頁 (2024年 2月)

判例評釈

「招集権限のない者によって招集された株主総会の決議に基づく資本減少、
株式併合が有効と認められた事例」(東京高判昭 59・6・28)

法律のひろば38巻11号 54頁 (1985年11月)

「株券分割請求および誤った株券記載事項の訂正請求の可否」(大阪高判昭
59・11・16)

税経通信40巻13号 276頁 (1985年11月)

「替玉詐欺と告知義務違反の除斥期間」(東京地判昭 58・4・28、東京高判
昭 59・1・31、最判昭 59・7・12)

文研保険事例研究会レポート15号 1頁 (1985年12月)

「死亡直前の受取人指定変更の有効性」(鳥取地裁米子支判昭 56・3・31)

文研保険事例研究会レポート28号 1頁 (1987年 3月)

「高度障害条項と告知義務違反」(千葉地判昭 60・2・22、東京高判昭 61・11・12)

文研保険事例研究会レポート36号 1頁 (1988年 1月)

「傷害特約における傷害を直接の原因とする死亡の意義」(大阪高判昭 56・5・12)

鴻常夫編

別冊ジュリスト97号『生命保険判例百選〔増補版〕』

266頁 (1988年 6月)

「生命保険付住宅ローンの債務者の債権者代位権による保険金請求権の代
位行使」(大阪高判昭 59・4・18)

旬刊商事法務1148号 34頁 (1988年 6月)

「路上でのゴルフクラブの素振による死亡事故と保険会社の支払義務」(大
阪地判昭 63・3・29)

ジュリスト912号 90頁 (1988年 7月)

- 「免許停止中の交通事故を原因とする災害保険金請求」(東京地判昭62・10・6)
文研保険事例研究会レポート52号1頁(1989年8月)
- 「普通保険約款中に免責事由として定められた「飲酒運転中の事故によると
き」の解釈」(大阪高判昭60・10・16)
旬刊商事法務1193号36頁(1989年9月)
- 「傷害特約における不慮の事故の原因」(旭川地判昭62・10・30)
文研保険事例研究会レポート58号1頁(1990年3月)
- 「被保険自動車の入替承認請求条項の効力」(大阪地判昭61・3・28)
旬刊商事法務1215号118頁(1990年5月)
- 「被保険自動車の用途変更と保険代理商の代理権限」(山形地裁酒田支判昭62・
5・28)
旬刊商事法務1244号40頁(1991年3月)
- 「病中の復活手続における代理人の告知義務違反」(東京地判昭60・5・24)
文研保険事例研究会レポート70号1頁(1991年6月)
- 「重複保険の告知・通知義務違反と故意の事故招致」(東京地判昭63・2・18)
旬刊商事法務1261号27頁(1991年9月)
- 「マニラにおける銃撃死と商法656条による保険の失効」(札幌地判平2・3・26)
文研保険事例研究会レポート76号1頁(1992年1月)
- 「共同運行供用者の悪意の事故による保険者免責」(東京地判平1・1・17)
旬刊商事法務1292号20頁(1992年7月)
- 「自動車保険の分割保険料の支払猶予期間中に発生した事故にもとづく保
険金請求」(高松高判平2・9・28)
私法判例リマークス5号120頁(1992年7月)
- 「危篤状態での受取人変更の意思表示の有効性」(浦和地判平3・9・18)
文研保険事例研究会レポート85号1頁(1993年1月)
- 「生命保険の保険金受取人が死亡した場合における保険金受取人の変更
に関する普通保険約款の解釈」(最二小判平4・3・13)
民商法雑誌107巻4・5号283頁(1993年2月)
- 「告知義務と重要な事実」(大審院判大11・8・28)
- 「告知義務違反と詐欺・錯誤との関係」(大審院判大6・12・14)
鴻常夫=竹内昭夫=江頭憲治郎編
別冊ジュリスト121号『商法(保険・海商)判例百選〔第2版〕』
88頁、96頁(1993年2月)

- 「生命保険契約の傷害特約・災害割増特約の免責事由にいう被保険者の重過失」(大阪高判平2・1・17)
旬刊商事法務1323号 23頁 (1993年6月)
- 「高血圧の告知義務違反と保険金受取人の代表者指定の意味」(秋田地判平4・6・6)
文研保険事例研究会レポート95号 1頁 (1994年2月)
- 「故意によって生じた損害をてん補しない旨の自家用自動車保険普通保険約款の条項が適用されない場合」(最三小判平5・3・30)
民商法雑誌110巻1号 94頁 (1994年4月)
- 「商法六七六条二項にいう「保険金受取人の相続人」の意義」(最三小判平5・9・7)
ジュリスト臨時増刊1046号『平成5年度重要判例解説』
123頁 (1994年6月)
- 「代理店と代理商」(大審院判昭15・3・12)
鴻常夫=竹内昭夫=江頭憲治郎編
別冊ジュリスト129号『商法(総則・商行為)判例百選〔第3版〕』
70頁 (1994年7月)
- 「傷害保険について重複保険契約の告知義務違反による解除が認められた事例」(東京地判平3・7・25、東京高判平5・9・28)
ほうむ38号 41頁 (1994年8月)
- 「自動車保険普通保険約款における免責事由の「故意」の意味」(神戸地裁尼崎支判平3・2・19)
旬刊商事法務1388号 71頁 (1995年5月)
- 「事業保険における保険金の保険契約者経由払の有効性」(東京地判平5・2・16、東京高判平5・11・29)
文研保険事例研究会レポート106号 17頁 (1995年5月)
- 「集中加入後の自動車事故による高度障害/公序良俗違反による契約無効」(東京地判平6・5・11)
文研保険事例研究会レポート112号 1頁 (1995年12月)

「後遺障害保険金の支払要件——機能障害の意義」(名古屋高裁金沢支判
平4・5・20)

鴻常夫=竹内昭夫=江頭憲治郎=山下友信編
別冊ジュリスト138号『損害保険判例百選〔第2版〕』
138頁(1996年6月)

「従業員の福祉のために事業者が加入した生命保険の死亡保険金の一部を
遺族に支払うべきものとされた事例」(名古屋地判平7・1・24)

私法判例リマークス13号116頁(1996年7月)

「高度障害査定後の死亡保険金請求」(静岡地判平7・3・14)

文研保険事例研究会レポート117号1頁(1996年7月)

「高速道路上の自損事故により重傷を負い車外で後続車の轢過に遭い死亡
した場合の搭乗者傷害条項に基づく死亡保険金の支払義務」(東京高判
平7・6・26)

ほうむ42号121頁(1996年10月)

「債権者代位権に基づいて債務者の生命保険契約を解約することの可否」
(大阪地判平5・7・16)

旬刊商事法務1443号34頁(1996年12月)

「日射病による死亡の災害死該当性」(大阪地判平5・8・30、大阪高判
平6・4・22、最三小判平8・1・23)

文研保険事例研究会レポート132号1頁(1998年2月)

「一 生命保険契約の保険契約者兼保険金受取人である有限会社が意思表示
の受領権限を有する者を欠く状態にある場合において保険金請求権の転付
債権者に対して告知義務違反を理由とする解除の意思表示をすることの可否
二 保険会社が告知義務違反による生命保険契約の解除原因を知った時に解
除の意思表示の受領権限を有する者がいない場合における解除原因を知っ
た後一箇月を経過したときには契約を解除することができない旨の約款の
解釈」(最三小判平9・6・17)

民商法雑誌118巻1号135頁(1998年4月)

「不正表示による盗難保険金請求」(長崎地判平10・3・18)

私法判例リマークス19号111頁(1999年7月)

「告知すべき重要事実」(広島地判平9・3・6、広島高判平10・1・28)

文研保険事例研究会レポート144号1頁(1999年7月)

- 「自家用自動車総合共済契約に付帯される他車運転条項中の免責要件の「他の自動車の使用について正当な権利を有する者の承諾を得ない」運転に該当するとして、免責が認められた事例」（東京高判平 11・3・25）
判例評論491号 31頁〔判例時報1691号 193頁〕（2000年 1月）
- 「生命保険契約の解約返戻金請求権を差し押さえた債権者の取立権に基づく解約権行使の可否」（最一小判平 11・9・9）
ジュリスト臨時増刊1179号『平成11年度重要判例解説』
105頁（2000年 6月）
- 「被保険者死亡後の受取人による保険金請求権の放棄」（京都地判平 11・3・1、大阪高判平 11・12・21）
文研保険事例研究会レポート153号 1頁（2000年 7月）
- 「労働安全衛生法所定の資格のない者がクレーンを操作した場合の保険者免責と説明義務」（東京地判平 9・3・13）
旬刊商事法務1583号 100頁（2001年 1月）
- 「従業員等を被保険者とする団体定期保険の保険金と死亡退職金の関係」（青森地判平 8・4・26）
旬刊商事法務1592号 46頁（2001年 4月）
- 「弁護士賠償責任保険の免責条項の解釈」（東京高判平 10・6・23）
旬刊商事法務1620号 29頁（2002年 2月）
- 「危険の著増」（東京高判平 12・2・23）
保険事例研究会レポート169号 1頁（2002年 3月）
- 「生命保険契約の災害割増特約に基づく災害保険金請求における偶発的事故の主張立証責任」（最二小判平 13・4・20）
私法判例リマークス25号 106頁（2002年 7月）
- 「代理店と代理商」（大審院判昭 15・3・12）
江頭憲治郎＝山下友信編
別冊ジュリスト164号『商法（総則・商行為）判例百選〔第4版〕』
70頁（2002年10月）
- 「先後関係にある取締役選任決議の不存在確認の訴えの利益」（最一小判平 11・3・25）
『現代ビジネス判例』編集委員会編
『現代ビジネス判例——企業行動の新たな指針——』
（法律文化社）49頁（2003年 3月）

- 「法人代表者の関与が推認される故殺免責と危険の著増」(東京高判平13・3・13)
保険事例研究会レポート178号10頁(2003年3月)
- 「取締役の放火損害に関する破産会社の保険金請求」(大阪高判平11・9・30)
旬刊商事法務1662号107頁(2003年5月)
- 「有限会社の取締役による被保険者故殺」(熊本地判平12・12・7、福岡高
判平13・11・29、最一小判平14・10・3)
保険事例研究会レポート179号13頁(2003年6月)
- 「代表権のない取締役による被保険者故殺と有限会社の生命保険金請求」
(最一小判平14・10・3)
判例評論537号38頁〔判例時報1831号200頁〕(2003年11月)
- 「地震保険契約締結の際の情報提供・説明義務」(最三小判平15・12・9)
ジュリスト臨時増刊1269号『平成15年度重要判例解説』
117頁(2004年6月)
- 「被保険者故殺による保険金取得目的の保険契約と公序良俗違反」(函館地
判平13・11・22、札幌高判平15・1・28)
保険事例研究会レポート195号14頁(2005年2月)
- 「自動車の所有権を留保した信販会社の車両保険金請求」(大阪地判平13・9・27)
旬刊商事法務1729号54頁(2005年4月)
- 「自殺免責期間経過後の自殺と保険者免責の可否」(最一小判平16・3・25)
保険事例研究会レポート197号13頁(2005年6月)
- 「事実上の取締役の第三者に対する責任——総合判例研究・取締役の第三者
に対する責任〔平成編〕——」
立命館法学303号297頁(2006年2月)
- 「生命保険契約につき保険契約者でない者が行った復活請求手続の効力」
(札幌地判平17・9・9)
私法判例リマークス33号122頁(2006年8月)
- 「死亡保険金請求権への質権設定と保険金受取人の同意」(大阪地判平18・8・30)
保険事例研究会レポート215号15頁(2007年6月)
- 「オールリスク保険における保険事故の偶発性の立証責任」(東京高判平
15・1・30)
旬刊商事法務1815号47頁(2007年11月)

- 「共同相続人の一人を保険金受取人とする養老保険契約に基づく死亡保険金請求権と民法九〇三条」(最決平 16・10・29)
旬刊商事法務1835号 48頁 (2008年 6 月)
- 「災害補償共済における傷害事故の外來性につき主張立証すべき内容」(最二小判平 19・7・6)
私法判例リマークス37号 108頁 (2008年 7 月)
- 「白紙委任状付記名株式譲渡の商慣習法」(大審院判昭 19・2・29)
江頭憲治郎=山下友信編
別冊ジュリスト194号『商法(総則・商行為)判例百選〔第5版〕』
4頁 (2008年12月)
- 「保険金受取人の変更と保険契約者の債権者による保険金請求権等の差押え」(東京地判平 20・2・14)
保険事例研究会レポート233号 16頁 (2009年 6 月)
- 「うつ病の被保険者の自殺と自殺免責条項の適用の可否」(大分地判平 17・9・8)
旬刊商事法務1878号 65頁 (2009年10月)
- 「指定受取人と当該指定受取人が先に死亡したとすればその相続人となるべき者が同時に死亡した場合における保険金受取人の確定方法」(最三小判平 21・6・2)
判例セレクト2009 [II] [法学教室354号別冊付録]
23頁 (2010年 3 月)
- 「保険金受取人とその相続人となるべき者が同時死亡した場合における指定受取人の相続人の範囲」(最三小判平 21・6・2)
ジュリスト臨時増刊1398号『平成21年度重要判例解説』
133頁 (2010年 4 月)
- 「店舗総合保険契約の水害保険金支払額調整条項における「他の保険契約」の意義」(最一小判平 21・6・4)
損害保険研究72巻 1号 203頁 (2010年 5 月)
- 「保険者免責条項にいう「酒気帯び運転」等の解釈」(大阪地判平 21・5・18)
損害保険研究73巻 3号 239頁 (2011年11月)
- 「生命保険会社の「お客様相談室長」が顧客とした合意について民法一一〇条を適用した事例」(東京高判平 20・7・31)
旬刊商事法務1960号 61頁 (2012年 3 月)

「うたた寝前のアルコール摂取・向精神薬服用の後の嘔吐等による窒息死が
傷害保険契約における「外来の事故」に当たらないとされた事例」(大阪
高判平 23・2・23)

私法判例リマックス45号 90頁 (2012年7月)

「第三者の故意の保険事故招致が信義則上保険契約者の行為と同一と評価
された事例」(広島高判平 26・6・11)

損害保険研究78巻1号 243頁 (2016年5月)

「自動車保険契約の搭乗者傷害特約にいう運行起因性がないとされた事例」
(最二小判平 28・3・4)

私法判例リマックス54号 10頁 (2017年2月)

「破産手続開始前に成立した第三者のためにする生命保険契約に基づき破
産者である死亡保険金受取人が有する死亡保険金請求権と破産財団への
帰属」(最一小判平 28・4・28)

民商法雑誌153巻1号 108頁 (2017年4月)

「睡眠導入剤等の影響により「正常な運転ができないおそれがある状態」で
の自動車運転事故による保険者免責」(名古屋高判平 25・7・25)

旬刊商事法務2133号 108頁 (2017年5月)

「共済金受取人の推定相続人である配偶者が共済契約者兼被共済者兼共済
金受取人を故殺した場合の死亡共済金請求権の帰趨」(高松高判平 26・9・12)

落合誠一＝山下典孝編

金融・商事判例(増刊) 1536号

『保険判例の分析と展開Ⅱ(平成24年～平成28年)』

86頁 (2018年3月)

「自動車保険契約の解約返戻金請求権を差し押さえた債権者の取立権に基
づく解約権行使の可否」(東京高判平 29・1・19)

損害保険研究80巻1号 191頁 (2018年5月)

「再保険と商慣習法」(大審院判昭 15・2・21)

神作裕之＝藤田友敬編

別冊ジュリスト243号『商法判例百選』4頁 (2019年6月)

「自賠償保険における被害者の直接請求権と労災保険を給付した国の直接
請求権の優劣」(最一小判平 30・9・25)

私法判例リマックス59号 94頁 (2019年7月)

「火災保険の目的物の実質的所有者の故意の保険事故招致による保険者免責」(東京高判令2・2・27)

ジュリスト臨時増刊1557号『令和2年度重要判例解説』
82頁(2021年4月)

「自動車保険契約における酒気帯び運転免責条項による免責の可否」(大阪高判令1・5・30)

判例評論747号9頁〔判例時報2477号119頁〕(2021年6月)

「損害保険契約における被保険者を定義する保険法二条四号イの立法趣旨と法的効果」(神戸地判平29・9・8)

旬刊商事法務2273号61頁(2021年9月)

「運送保険において現金を輸送する被保険者の故意・重過失の有無、輸送方法の適格性および現金輸送の公序良俗適合性」(東京地判令3・12・8)

損害保険研究85巻3号275頁(2023年11月)

分担執筆(共著・共編書の執筆担当部分)

「第2章第1節〔2〕保険事故招致免責」

「第2章第3節 保険契約上の義務違反〔概説〕」

「第2章第3節〔5〕他保険契約通知とその違反」

「第2章第3節〔6〕危険の著増著変と契約の失効」

「第3章 生命保険契約〔概説〕」

「第3章〔9〕生命保険契約の成立——承諾前死亡」

戸田修三＝西島梅治編『保険法・海商法』〔青林法学双書〕
(青林書院)15頁、45頁、52頁、58頁、82頁、85頁(1993年4月)

「第2編第5章 営業の補助者」

「第2編第6章 代理商」

酒巻俊雄＝森淳二郎編
『商法総則』〔現代青林講義〕(青林書院)
97頁、113頁(1994年5月)

「第4章 生命保険」

「第5章 傷害保険・疾病保険」

山下友信 = 竹濱修 = 洲崎博史 = 山本哲生著
『保険法』〔有斐閣アルマ〕(有斐閣)
〔初版〕187頁、267頁(1999年5月)
〔第2版〕201頁、287頁(2004年10月)

「第11章 損害保険における保険事故招致免責」

竹濱修 = 木下孝治 = 新井修司編
『保険法改正の論点』〔中西正明先生喜寿記念論文集〕
(法律文化社) 178頁(2009年3月)

「第4章 生命保険」

「第5章 傷害疾病保険」

山下友信 = 竹濱修 = 洲崎博史 = 山本哲生著
『保険法』〔有斐閣アルマ〕(有斐閣)
〔第3版〕227頁、345頁(2010年3月)
〔第3版補訂版〕227頁、345頁(2015年3月)
〔第4版〕233頁、353頁(2019年4月)

「第8章 株主総会」

「第17章 組織再編」

竹濱修編『基礎クラス + α 会社法』
(法律文化社) 140頁、304頁(2010年11月)

「第2編 保険 第2章 任意保険 第1節 対人保険 I 保険事故の範囲」

藤村和夫 = 伊藤文夫 = 高野真人 = 森富義明編
『実務 交通事故訴訟大系第2巻 責任と保険』
(ぎょうせい) 372頁(2017年11月)

「終章 保険法制定とその後」

竹濱修監修/泉裕章 = 矢野慎治郎 = 前田順平編著
『保険法の新潮流——SDGs 時代における保険法の役割と諸法との交錯』
(法律文化社) 341頁(2021年10月)

辞 典

「親会社・子会社」(10頁)、「株券の資格授与的効力」(57頁)、「株券の質入」(58頁)、「株券の善意取得」(59頁)、「株式の譲渡担保」(73頁)、「株式の譲渡方法」(73頁)、「株式の内部者取引」(75頁)、「株式の名義書換」(78頁)、「子会社による親会社株式の取得」(145頁)、「自己株式の質受」(159頁)、「自己株式の取得禁止」(159頁)、「自己株式の地位」(161頁)、「失念株」(163頁)、「支配会社・従属会社」(164頁)、「登録機関」(241頁)、「登録質」(242頁)、「独占禁止法による株式取得・保有規制」(243頁)、「名義書換禁止の仮処分」(298頁)、「名義書換代理人」(298頁)

河本一郎 = 今井宏 = 森田章編著

『会社法辞典』(中央経済社)(1994年2月)

報 告

「NOVA・IDUNA 社」

ヨーロッパ金融法制調査団編『ヨーロッパ金融法制調査報告書』
(財生命保険文化研究所) 68頁 (1989年3月)

「アメリカ保険法におけるワランティの動態」

保険学雑誌525号 58頁 (1989年6月)

「保険事故発生の通知・説明義務の再検討」

私法53号 266頁 (1991年4月)

「保険契約法における道徳危険と民法理論」

私法56号 93頁 (1994年4月)

「保険会社の破綻時におけるセーフティーネット——保険契約者保護機構」

金融法研究16号 73頁 (2000年4月)

「商法六八〇条一項一号と自殺免責条項」

(甘利公人、笹本幸祐と共同執筆)

私法64号 141頁 (2002年4月)

「保険法改正 I はじめに」

「保険法改正 VI 生命保険契約に固有の問題」

旬刊商事法務1808号 4頁、47頁 (2007年8月)

資料・翻訳・紹介

「大規模有限会社の法的実態」

(志村治美と共著)

立命館法学169号 83頁 (1983年12月)

ドイッチュ「責任法総論」(八)「二五 責任に代わる保険」

立命館法学200号 112頁 (1988年12月)

“Mark J. Roe, *Foundations of Corporate Finance: The 1906 Pacification of the Insurance Industry*, 93 COLUM. L. REV. 639-684(1993)”

[1995-2]アメリカ法 280頁 (1996年3月)

「第2編 人保険」

「第1部 生命保険」

「第1章 生命保険における危険」

イヴォンヌ・ランベール-フェーヴル著/羽原敬二監訳

『フランス保険法(第2編 人保険)』

(財生命保険文化研究所) 1頁、7頁、9頁 (1996年3月)

エルンスト・クリングミュラー

「規制緩和後のドイツ保険事業における消費者保護」

長尾治助=山根裕子=堀田牧太郎=竹濱修=鹿野菜穂子=出口雅久編

『消費者法の比較法的研究』[立命館大学人文科学研究所研究叢書9]

(有斐閣) 197頁 (1997年8月)

コメンタール

「保険業法逐条解説(Ⅲ)第7条」

文研論集90号 193頁 (1990年3月)

「保険業法逐条解説(Ⅻ)第63条～第65条」

文研論集106号 228頁 (1994年3月)

「保険業法逐条解説(ⅩⅢ)第66条～第67条」

文研論集107号 209頁 (1994年6月)

「保険業法逐条解説(ⅩⅤⅢ)第6章[前注]、第108条～第126条」

文研論集112号 117頁 (1995年9月)

「保険業法逐条解説(Ⅵ)第42条～第50条」

文研論集130号 139頁 (2000年3月)

- 「保険業法逐条解説（XV）第101条～第105条」
生命保険論集139号 217頁（2002年 6 月）
- 「保険業法逐条解説（XXI）第159条～第173条」
生命保険論集146号 99頁（2004年 3 月）
- 「第 3 条（用語の定義）第 8 号～第 9 号」
- 「第 4 条（保険期間）」
- 「第 6 条（てん補しない損害—その 2）総説、第 1 号～第 4 号」
- 「第10条（他の保険契約との関係）」
- 「第24条（保険金の請求）」
山下友信編著『逐条 D&O 保険約款』（商事法務）
55頁、60頁、107頁、152頁、228頁（2005年 9 月）
- 「保険金受取人の死亡 第46条、第75条」
- 「危険の減少 第48条、第77条」
- 「第 3 節 保険給付 前注」
- 「第 3 節 保険給付 契約前発病不担保条項」
- 「危険増加による解除 第56条、第85条」
山下友信＝米山高生編
『保険法解説——生命保険・傷害疾病定額保険』（有斐閣）
330頁、348頁、419頁、483頁、550頁（2010年 4 月）
- 「保険業法逐条解説（XXVIII）第283条～第285条」
生命保険論集176号 115頁（2011年 9 月）
- 「保険業法逐条解説（XXXIX）第300条 1 項 7 号、9 号」
生命保険論集187号 225頁（2014年 6 月）
- 「保険業法逐条解説（XXXXVI）
第四編 指定紛争解決機関 前注、第308条の 2～6」
生命保険論集195号 145頁（2016年 6 月）
- 「保険業法逐条解説（XXXXVII）第308条の 7～12」
生命保険論集196号 189頁（2016年 9 月）
- 「保険業法逐条解説（XXXXVIII）第308条の13～24」
生命保険論集197号 201頁（2016年12月）

書 評

坂口光男著『保険者免責の基礎理論』

明治大学社会科学研究所紀要32巻2号 213頁 (1994年1月)

山下友信編『高度道路交通システム (ITS) と法——法的責任と保険制度』

ジュリスト1294号 41頁 (2005年7月)

坂口光男著『保険法学説史の研究』

保険学雑誌605号 181頁 (2009年6月)

佐野誠著『ノーフォルト自動車保険論』

保険毎日新聞17884号 11頁 (2016年11月)

吉澤卓哉著『損害保険の約款構造 原因事故の捉え方と2種類の偶然性を中心に』

保険学雑誌650号 99頁 (2020年9月)

そ の 他

「1994年学界回顧 保険・海商・航空法」(相原隆と共同執筆)

法律時報66巻13号 114頁 (1994年12月)

「1995年学界回顧 保険・海商・航空法」(相原隆と共同執筆)

法律時報67巻13号 116頁 (1995年12月)

「監訳者序文」

「第3編 企業」*座長および監訳を担当

武知政芳 = 竹濱修監訳

『フランス保険法典Ⅱ 義務的保険・企業 (その1)』

(法律・政令・省令) 1998年段階』

(財生命保険文化研究所) 4頁、83頁 (1999年4月)

「募集行為規制の再検討——平成16年度大会シンポジウム——：はじめに」

保険学雑誌587号 1頁 (2004年12月)

「山名法律・税務事務所 訪問記」

立命館ロー・ニューズレター41号 2頁 (2005年6月)

「EU 保険関係指令の現状 (解説編) : 監修者のことば」

竹濱修監修『EU 保険関係指令の現状 (解説編)』

(財損害保険事業総合研究所) 1頁 (2006年3月)

「法学研究科長ご挨拶」

立命館ロー・ニューズレター49号 2頁 (2007年6月)

「新保険法の課題と展望：はじめに」

保険学雑誌608号 1頁（2010年3月）

「法学部長就任のご挨拶」

立命館ロー・ニューズレター69号 2頁（2012年6月）

「保険法・国際シンポジウム（南京大学）に参加して」

立命館ロー・ニューズレター72号 13頁（2013年3月）

「法学部の「入口と出口」

立命館ロー・ニューズレター75号 2頁（2013年12月）

「日本保険学会平成28年度全国大会・総会を開催して」

立命館ロー・ニューズレター82号 10頁（2017年3月）

「保険法10年の経験と今後の課題——令和元年度大会シンポジウム——
：はじめに」

保険学雑誌649号 1頁（2020年6月）

「2年越しのオンライン日本私法学会・学会報告を終えて」

立命館ロー・ニューズレター92号 20頁（2022年2月）

「定年雑感」

立命館ロー・ニューズレター96号 2頁（2024年2月）

学会等報告

「アメリカ保険法におけるワランティ法理——その変遷素描——」

日本保険学会関西西部会昭和63年度第2回報告会
1988年11月26日（於：岡山商科大学）

「保険事故発生の通知・説明義務の再検討」

日本私法学会第54回大会第三部会
1990年10月6～7日（於：慶應義塾大学）

「保険契約法における道德危険と民法理論」

日本私法学会第57回大会シンポジウム
商法部会「保険契約法と民法理論の交錯」
1993年10月9～10日（於：龍谷大学）

「保険事故招致に関する一考察——学説・判例法の最近の展開——」

日本保険学会平成6年度大会研究報告
1994年10月9日（於：専修大学）

「災害と保険——保険契約法の視角から」

立命館土曜講座

1995年5月27日(於:立命館大学)

「保険会社の破綻時におけるセーフティーネット——保険契約者保護機構」

金融法学会第16回大会シンポジウム

「金融機関の破綻時における顧客保護
——セーフティーネットの諸問題——」

1999年10月12日(於:大阪弁護士会館)

「商法六八〇条一項一号と自殺免責条項」*コメンテーターを担当

日本私法学会第65回大会商法ワークショップ

2001年10月7～8日(於:近畿大学)

「保険法改正の動向」

東京3弁護士会消費者保護委員会講演会

2007年7月

「保険法改正の動向」

平成19年度近畿弁護士連合会

交通・消費者保護委員会夏季研修会

2007年8月

「はじめに」

「生命保険契約に固有の問題」

日本私法学会第71回大会シンポジウム「保険法改正」

2007年10月6～7日(於:専修大学)

「保険契約における消費者主権の確立～保険法改正に対する立法提言に向けて～」

第28回近畿弁護士連合会大会シンポジウム

第1分科会(消費者保護・交通事故部門)

2007年11月30日(於:大阪弁護士会館)

「はじめに」「まとめ」*司会を担当

平成21年度日本保険学会大会シンポジウム

「新保険法の課題と展望」

2009年10月24日(於:龍谷大学)

「新保険法の特徴点」

第107回日本保険医学会定時総会パネルディスカッション

2010年10月7～8日(於:有楽町朝日ホール)

竹濱修教授 略歴・主な業績

「暴力団排除条項の実践とそれに伴う問題点の検討 「生命保険分野及び
損害保険分野からの排除」解説」

平成23年度近畿弁護士会連合会

「民事介入暴力及び非弁護士活動対策委員会夏季研修会」

2011年8月20日

「2008年日本・保険法の改正とその後の展開」

国際シンポジウム「保険法の現代的展開」

2012年11月2～3日（於：中国・南京市）

「はじめに」*司会を担当

日本保険学会令和元年度全国大会シンポジウム

「保険法10年の経験と今後の課題」

2019年10月26日（於：関西大学）

「民法改正の保険契約への影響——無催告失効条項、継続保険契約の
質権設定、配偶者居住権の被保険利益について」

日本私法学会第84回大会ミニシンポジウム

「保険法施行一〇年——理論的課題と展望」

2021年10月9～10日（オンライン開催）